



ご提案

災害時に普段通りの通信ができる設備は用意されていますか？  
 災害時に実施すべき業務を定めた業務継続計画（BCP）は策定済みですか？  
 これまでの災害においては、「地上回線が使えない」、「携帯電話が繋がらない」といった問題が多く発生しています。そこで、**災害時においても普段通りのコミュニケーション（SNS、メール、電話、インターネット）ができる『高速衛星通信』**をご提案いたします。  
 また、災害時のいざという時に備えて、道の駅において、災害時に実施すべき業務を洗い出し、それを確実に実施していくためのBCPの策定をご提案いたします。

災害に強い『高速衛星通信』

高速衛星通信とは

- 上空36,000kmの衛星を介して、データの送受信を行う双方向の通信システムです。
- 音声通話だけでなくデータ通信・インターネットも可能な通信手段です。
- 可搬アンテナ等を利用すれば地上回線が使えない場所でも通信が可能です。
- 自然災害時のネットワーク確保という耐災害性の観点からも、優位性を発揮します。

【システムイメージ図】



高速衛星通信のメリット

| 項目      | 高速衛星通信             | 従来の衛星電話        |
|---------|--------------------|----------------|
| 音声通話    | 繋がりがやすい            | 繋がりにくい         |
| インターネット | 高速・大容量データ送信        | 通信可能な情報量少なく、遅い |
| 通信接続    | 常設アンテナによる常時接続      | 使用（災害）の都度、接続必要 |
| 料金      | 定額料金 のため訓練等に積極活用可能 | 平常時に積極活用できない   |

高速衛星通信から高速衛星通信へ音声通話を行う場合

## 災害時の活用事例（東日本地震）

- ・ 震災の影響により通信が遮断した地域において高速衛星通信を提供しました。
- ・ 陸前高田市米崎コミュニティセンター、気仙沼市総合体育館他9カ所に設置しました。
- ・ 災害対策本部や医療施設での通信環境を提供し、救助活動や医療活動にて活用しました。



衛星固定局の設置（陸前高田市）



災害対策本部でのインターネット使用状況

## （参考）平常時の活用

- ・ 平常時も一般的な電話として、定額料金での通話が可能です。
- ・ サイネージとして活用することで、CM等を放映することにより、広告収入を得ることもできます。



サイネージの設置例（道の駅）



サイネージ（イメージ）

## 道の駅におけるBCP策定と通信設備の導入

### BCP策定のプロセス

#### 業務継続計画の重要な6要素

首長不在時の明確な代行順位及び職員の参集体制  
本庁舎が使用不可能時の代替庁舎の特定  
電気、水道、食料等の確保  
災害時にもつながりやすい多様な通信手段の確保  
重要な行政データのバックアップ  
非常優先業務の整理

対象とする大規模地震等の設定

職員、庁舎、インフラの被害想定シナリオ作成

非常時優先業務の特定  
業務開始目標時間の設定

課題と対策の検討

事業継続力向上のための  
取組みの検討

## 対策例）道の駅における通信設備の導入

### 防サイネージ導入事例（岩手県遠野市道の駅「遠野風の丘」）

- ・ 広い駐車場やトイレがあり、発災時に自然と人が集まる道の駅に設置
- ・ 平常時は、来館者に対して遠野市の観光情報や気象情報等を提供している
- ・ 発災時は、衛星通信を利用してインターネットが繋がりにIP電話も利用可
- ・ 2016年7月に設置



### 防サイネージ 平常時の活用：コミュニティ広場等での情報発信ツール



### 防サイネージ 災害時の活用：災害対応通信インフラ、情報提供ツール

